

研究マネジメント学

～“支援”より“マネジメント”？～



岐阜大学 研究推進・社会連携機構
特任准教授・リサーチ・アドミニストレーター
馬場 大輔

「研究支援学」が可能か、
議論してみませんか？

はい！
面白いじゃないですか！

とはいったものの、、、

学問として誰がやるんだろう？

学問とする意味があるんだろうか？

実践、スキルがあってなんぼ

机上の理論より実利のある「学」がいいな

“研究”を“支援”する“学”と言われても、、、

URAの業務は、
研究について言えば、“支援”だけではない。
文字通り“支援”もするが、どちらかというところ、
全体のバランスをとって、調整することも重要

「研究“マネジメント”学」
の方が適当なのでは？

研究“支援”学

「支援 = サポート」

たとえば、

- ・ 提案書作成“支援”
- ・ 申請“支援”
- ・ 業務管理“支援”
- ・ 研究グループ形成“支援”
- ・ 国際連携“支援”
- ・ 企業マッチング“支援”
- ・ イベント開催“支援”・・・

“支援”は、主体に対するお手伝い、一助という印象

研究“マネジメント”学

「マネジメント＝管理・効果の最適化」

たとえば、

- ・ 研究グループ形成“マネジメント”
- ・ 海外機関調整“マネジメント”
- ・ 研究戦略“マネジメント”
- ・ 研究プロジェクト“マネジメント”
- ・ 研究環境“マネジメント”
- ・ 研究倫理・リスク“マネジメント”・・・

“マネジメント”は、一段階上の立場から主体を動かす印象

“支援”vs“マネジメント”

URA業務で比較してみると

業務	支援	マネジメント
提案書作成	添削、誘導、解説	コツ、ディレクション
公募情報	連絡調整、情報提供	戦略、方針、人事
申請	事務作業	再配、分担
研究グループ形成	連絡調整、情報提供	戦略、方針、人事
海外機関	連絡調整、情報提供	戦略、方針、人事
企業マッチング	連絡調整、情報提供	戦略、方針
プロジェクト管理	連絡調整、事務作業	戦略、方針、人事
イベント開催	連絡調整、事務作業	戦略、方針
研究倫理・リスク	事務作業	戦略、方針、管理

業務対象が同じであっても、
支援とマネジメントでは、**やることは異なる**のではないか？

URAとしてのミッションは？

URAを職種（＝給料をもらう）と考えたとき、

- ・ 教員のサポートに徹する
- ・ 教員の管理・効果の最適化を狙う
- ・ 大学のビジョンに従い教員を誘導する
- ・ ボトムアップ型で教員と一緒に大学を変えていく

など、大学によってURAの位置付けが異なる。

URAの裁量権は？

URAとして、

- ・ 教員のサポートに徹する
- ・ 教員にアドバイスする
- ・ 学長に意見できる
- ・ URA自身が独断（自己責任）

など、大学によってURAの裁量権**も**異なる。

いずれにせよ
URAという「仕事」と考えたとき、
給料をもらうためには、

何かしらの業績や目標の達成率で評価される。
つまり、URAとしての“仕事”をスキルアップしないといけない。

URAとしてのスキルアップは どうやって学ぶのか？

より効率的、効果的な支援方法や、運営手法など
経験や実績の豊富なURAから学ぶことはある。

たとえば、、、
多くの実績を持つカリスマURA Aは
よりよい手法やノウハウをマニュアル化し
「A手法」という実践手法を確立させた。

カリスマURAや「○○手法」を 分析、解析することは、 URAにとっての“学”なのか？

「A手法」に対して、同様に「B手法」が対極にある手法を提案しURA間で話題となってきた。
その手法を比較する研究者C氏と、
両手法を実践してみようとするURA D田氏がいる。

研究者C田氏のアウトプットは論文？提言？
URA D田氏は、“学んだ”のか“体で覚えた”のか？

C氏は、一生懸命机の上で分析・解析して
比較研究型「A-Bハイブリッド手法」を発表。

D氏は、毎日両手法を交互に実践して
実践淘汰型「A-Bハイブリッド手法」を発表。

どちらの手法が、 URAにとっての“学”なのか？

URAにとって、汎用的に“使える”手法なのか？

学問としての“机上の理論”になっていないか？

“誰か”が、“何とかして”活用できれば、
実“学”として意味がある、と言えるのか？

そもそも、研究者C氏の存在 = 新たな学問として
価値がある、とするのか？

私なら、URAとして“使える”手法はほしい！

では、誰が、誰のために 研究するのか？

カリスマURAは、
果たして“使える”手法を公開するだろうか？
(カリスマURAにライバルが増えるかも??)

実務者であるURAは、
ノウハウとして実践することはあっても、
“学”として“研究”するだろうか？
(自分のためでなく、仲間のためやるか?)

もしかして、URAが実践して成果が得られれば、
実学として十分に“学”なのかも？
(ライバル、受益者なんて考えなくていい?)

今、こうやって発表しているように
自分自身の日常業務のトライアルを、
“事例”として落とし込んで、比較、分析、解析することは可能。
仮説は立てることができるので、結論も得られる。

そういった数々のカリスマURAや「○○手法」など
任意で公開された情報について、
学会やシンポジウム、論文でディスカスする。

確かに、これは“学”かも？

改めて

研究“支援”学なのか

研究“マネジメント”学なのか

“支援”学

直接的、何をどう対応するか手法や技法 (WHAT)
technique, method

“マネジメント”学

間接的、どうやってそれを導くか理論や機構 (HOW)
process, mechanism

研究として“学”したい人によって、
“学”としての捉え方が異なるでしょうが、、

ただし、対象者（受益者？）は大きく異なる！

“支援”学

URAとしてtechniqueやmethodを突き詰め、
共有したい人が、**習得したい**人向けに。

パッシブURA向け？

“マネジメント”学

URAとしてprocessやmechanismを解明し、
提案したい人が、一緒に**考えたい**人向けに。

アクティブURA向け？

自ら“学”したい人は、
“支援”学、“マネジメント”学、どちらでもいい。
(アクティブURAなので。)

しかし、
パッシブな情報を仕入れた
「誰でもなれるURA」ではなく、
アクティブに自らの意思を持った
「人とは違うURA」であってほしい。

よって、これから学術研究として議論していくのであれば、

研究“支援”学ではなく、
研究“マネジメント”学！